

No.123 会社訪問

株式会社 堀場アドバンステクノ

代表取締役社長 堀場 弾 氏



会社プロフィール

代表者：代表取締役社長 堀場 弾

本社：〒601-8306 京都府南区吉祥院宮の西町31番地

TEL：075-321-7184（代表）

設立：昭和50年（1975年）3月28日

資本金：2億5000万円

営業所：東京セールスオフィス/名古屋セールスオフィス/
大阪セールスオフィス/四国セールスオフィス/
九州セールスオフィス/東北セールスオフィス/
広島セールスオフィス事業内容：水処理・半導体・地球環境・農林水産・食品分野における
液体の分析

および計測機器の開発・製造・販売

URL：http://www.horiba.com/jp/horiba-stec/

聞き手：鈴木 裕之（広報委員） 岡田 康弘（事務局長） 取材・編集：クリエイティブ・レイ株式会社

HORIBA

堀場製作所の礎を築いたpHメータで水・液体計測の未来を切り拓くセンシング技術のエキスパート

— 御社の主な事業内容についてお聞かせください。

堀場アドバンステクノは、分析・計測機器メーカーである堀場製作所のグループ会社（以下、HORIBAグループ）のひとつで、環境計測および半導体製造分野におけるセンシングテクノロジーのエキスパートカンパニーです。堀場製作所の創業製品であるpHメータを中心とする水質や液体の計測に関わる事業が子会社である弊社に移管され、HORIBAグループの水・液体事業をすべて手掛けることになりました。それに伴い、堀場アドバンステクノでは製品の営業活動から開発、生産、カスタマーサポートに至るまでワンストップで行える体制を整えています。

HORIBAグループで扱っている5事業（自動車、医用、半導体、環境・プロセス、科学）のうち、弊社では半導体、環境・プロセス、科学の3つの事業において水や液体に関わる製品とサービスの提供を行っています。半導体向けの製品とサービスの具体例としては、製造プロセスに使用される薬液の濃度モニターであったり、半導体エレクトロニクス分野で使われる超純水の水質の管理などが挙げられます。2つ目の環境・プロセスの事業では、主に日本国内の上下水道の水を管理する計器や工場の排水管理に用いられる計器

などが挙げられます。3つ目の科学の関連では主に研究開発、大学の研究所で使われているラボ用のpHメータをはじめとする食品、医薬品などの産業に合わせた多様な水質計を提供しています。また酪農や船舶、バイオなど、全く新しいアプリケーションの開発にも積極的に取り組んでいます。

— 創業の経緯や当時の様子をお聞かせください。

堀場アドバンステクノ自体の設立は昭和50年（1975年）です。当時はコンポーネント（COMPONENT）、サプライ（SUPPLY）&サービス（SERVICE）のアルファベットを組み合わせたコス（COS）という社名を名乗っていました。



2017年4月、テキサス州ヒューストンに完成した新工場

経営資料

平成16年(2004年)にグループのブランドを統一するために、現在の社名に変更しました。

一方、親会社である堀場製作所のルーツは、戦後間もない昭和20年(1945年)に祖父の堀場雅夫が京都大学在学中に立ち上げた堀場無線研究所にさかのぼります。大学で原子核物理を研究していましたが、武器開発にもつながる分野であったため、終戦により大学の研究設備はGHQに破壊されました。研究を続けるために私設の研究所を構えたのがその興りです。研究に用いる高速演算機用に開発した電解コンデンサの品質が評価され、電化製品の部品として大きな注文が期待できたことから量産化のため工場建設に着手しました。しかし、朝鮮動乱により建設資材や材料費が高騰し工場建設を断念することになりました。その後、コンデンサの電解液のpH値をコントロールするために自作していたpHメータの販売を手掛けると、その性能と品質の高さが市場に受け入れられます。

こうして昭和28年(1953年)に堀場製作所を設立し、研究開発型企業の基礎を確立しました。堀場製作所設立の礎を築いたpHメータは「pHのHORIBA」と会社の代名詞になるほど長くHORIBAブランドを支えています。事業が多角化し、複数のグループ会社で販路を分けていましたが、営業活動から製品化、カスタマーサポートまでがひとつになった組織で力を集約する方がいだろうという経営判断のもと、水・液体事業の全てが堀場アドバンステクノに移管される運びとなりました。

——これまでに経営者として強く印象に残った出来事などがあればお聞かせください。

私は平成16年(2004年)に大学卒業後、すぐに堀場製作所に入社しました。絶対に堀場製作所を継がなければなら

ないという環境で育ったわけではないのですが、高い志を持って仕事ができる場所は堀場製作所以外には考えられませんでした。東京の営業部や本社(京都)で事業企画を担当した後、平成20年(2008年)にアメリカへ渡りました。ミシガン州で4年間、自動車の計測部門に籍を置き、業績解析や経営サポート、マーケティング関連等の業務に携わっていました。その後2年間、カリフォルニア州のアーバインで現地の責任者のサポート業務を勤め、同時に現地の大学院にも2年間通いました。そして、3年半ほど現地法人で社長職を務め、今年3月末に日本へ帰国しました。堀場アドバンステクノの社長としての経歴はまだまだ浅いこともあり、アメリカ法人で経営者として感じた喜びを紹介したいと思います。

社長として在任した3年半の間にテキサス州、ニュージャージー州、ネバダ州に3つの新社屋の投資を現地の事業責任者と共に決断し実践できたことは、経営者として大きな出来事となりました。新社屋の建設は極めて大きな投資ですから、中長期的な視点や戦略とともに今後の会社の成長や、そこで働く従業員たちのことも考え、入念に計画を進めていきました。この経験から多くを学ぶ事もできました。

堀場製作所の独自のポリシーでもある「おもしろおかしく」の精神は、アメリカ人の従業員たちにも浸透し、「JOY and FUN」という言葉で日常的に社内でも使われています。会議などで良い解決策や結論に至らなかった状況でもアメリカ人の方から「This is JOY and FUN!」と声を掛けられ、私自身がハッとさせられることもありました。ポジティブな国民性のアメリカ人にとっても大切なフィロソフィーとして根付いていることを認識することができました。



自動全室素・全りん
測定装置
TPNA-500



卓上型pHメータ
F-72TW1120



導電率計HE960RW
ERFセンサ



微量サンプリングpH
up-100シリーズ



薬液濃度モニタCS-700

経営資料

アメリカ法人は今年、設立45周年を迎えたメモリアルイヤーということもあり、テレビ会議のスタイルでアメリカ国内にある9つの拠点をつなぎ、記念パーティを開催しました。テレビ画面に映し出された各拠点のオフィスには華やかな飾り付けが施されていました。パーティの最後には3年半社長を務めた私に対して各拠点から感謝の記念品や寄せ書きなどを贈っていただきました。現地のメンバーと苦労を共にした月日は、私にとって大きな財産となっています。

— これまでに経営上もっとも困難だった時期や出来事などがあれば、お聞かせください。

アメリカ式のオペレーションは基本的に縦割りの組織ということもあり、成果が出ていない人に対しては躊躇なく解雇を言い渡しますし、事業そのものを無くしてしまうことも珍しくありません。ちなみにHORIBAグループでは、社員を「ホリバリアン」と呼び、また、人は材料ではなく財産という考えから「人財」と書きます。従業員を大切にせる企業風土を誇りに、グループの海外各社においても、社員教育を含めた人財育成に力を入れてきました。このように堀場製作所では基本的にリストラを行わない経営姿勢をとっています。しかしながら、海外オペレーションでは時として解雇を断行せざるを得ない局面もあります。結果が出ていなかったという正当な理由もあるのですが、それでもやはり、昨日まで共に仕事をしてきた仲間に解雇を告げることは苦渋の決断でしたし、心情的にも非常に辛い経験でした。会社としては、彼らが次の職場が見つかるまでの補助金の助成を支援するなど、できる限りのサポートを行いました。

— 御社の経営理念や経営方針などをお聞かせください。

「人財」に象徴されるように、HORIBAグループは従業員を財産として大切にしています。その一例として経営者がホスト役として従業員の誕生会を開催しています。京都



約2000人が参加するHORIBAグループ感謝デー（左）と毎月開催されるバースデーパーティー（右）

本社地区では毎月、東京、名古屋、九州など各地域でも定期的に開催します。製品の誕生会というものも開催しており、新製品がリリースされたタイミングで製品に携わったメンバーに製品にかけた思いなどを改めて聞き、彼らの奮闘を労います。

他にも毎年5月の連休前日に、国内グループの全社員が参加し、仲間としての絆に感謝する「グループ感謝デー」を全国の各事業所で開催しています。これは従業員たち自らが企画を立案してイベントを盛り上げています。今年、本社地区では滋賀県の工場にあるグラウンドに対象拠点の全社員が集まり、2,300人規模の大運動会とバーベキュー大会を開催し、地元の近江牛を優勝賞品として争奪しました。こうした従業員が主体的に行うユニークな取り組みは、弊社ならではのかもしれませんが、従業員たちは日々の業務と並行して企画を形あるものに仕上げているわけですから限られた時間の中での準備は大変だと思います。それでも頑張れるのは「絶対に成功させたい」というモチベーションや達成した時の喜びや、やりがいがあるからこそだと思います。「おもしろおかしく」の精神がグループ全体に浸透し、伝統としてしっかり受け継がれていることがこうした各種のイベントからも感じることができます。堀場アドバンスドテクノとしても毎年一度「HAT（ハット）会」（HATは社名の頭文字）と称して従業員が一堂に会する機会を設けています。

— 現在の課題、今後の目標をお聞かせください。

現在、さまざまな事業や産業の分野で技術、製品における変革のスピードが非常に速まっています。私たちの業界でもICTを応用した技術の変革が必要とされる時期が来ています。「アンメットニーズ」と呼んでいる、お客さまが現場で求めている声や要望をいかに聞き出し、製品化へと迅速につなげていくかがますます大事であると考えています。それに伴い、社内での判断をスピーディに行っていくことも

重要な課題だと感じています。

先ほど申し上げた3つの事業のうち、半導体関連事業は、世界の顧客ニーズに対応し海外向け売上も多い事業です。科学分野は、海外向け売上の占める割合はまだ多くありませんし、環境・プロセス事業においても、今後特にアジアを中心に水質環境改善のニーズを捉える事で、グローバルな成長を期待しています。これらの分野でグローバルな展開を

経営資料

加速するうえでも、優れた製品を投入することに加えて、海外拠点でそれぞれのニーズに合わせた製品開発、エンジニアリング、サービスの充実を組み合わせることを目標に掲げています。40年にわたる水質改善への地道な製品とサービスの提供が背景にありますから、弊社の強みを活かしながら、今後益々世界各国の水質改善や研究開発などで弊社の製品をご使用頂けるように努力を続けていきたいと思えます。

——座右の銘や敬愛する歴史上の人物、心掛けているモットーなどがあれば、お聞かせください。

座右の銘は「人間万事塞翁が馬」です。人生にはいい時もあれば、うまくいかない時もあり、うまくいっている時でも常に冷静な思考でありたいですし、うまくいかない時にはそれが、自分に与えられた試練であると考え、どんな状況にあっても一喜一憂し過ぎることのない自分でありたいと思っています。

また、私にとってのモットーは「常にベストを尽くす」です。父からは「仕事、勉強、遊び、スポーツ、何事においてもできる限りのことを尽くさない」と教わってきました。常に精一杯できる限りのことをやっていたら、いい意味で割り切れますし、仮に成功に結び付かなかったとしても悔いが残らないはずで、経営者の立場になり、更にこの言葉の実践を心がけています。

敬愛する歴史上の人物は、義を重んじた戦国武将の上杉謙信です。けっして自分から戦を仕掛けることなく、しかも自分の欲望に支配されることなく戦乱の世を生き生きに感銘を受けました。時には、自分を裏切った人間に対しても寛大な心で許してしまう器の大きさも魅力です。現代の経営者に置き換えてみると、その考え方は間違っ

ているのかもしれませんが、義を重んじるということに関しては己の信念を貫いていると思えます。



堀場雅夫
(2015年死去)

——堀場社長の趣味や、休日を楽しんでいることがあれば、お聞かせください。

趣味はサッカーです。かれこれ20年以上やっています。アメリカにいた頃も現地の人たちの中に自ら飛び込んで、一緒にプレーをしていました。サッカーをすることで、体力の向上やストレス発散にもつながりますが、なによりも業種や肩書を気にすることなく付き合える友人を作ることができました。語学の勉強にもなりましたし、サッカーによって一石二鳥以上の嬉しい成果が得られたと思います。現在も隙間時間を見つけて草サッカーを楽しんでいます。

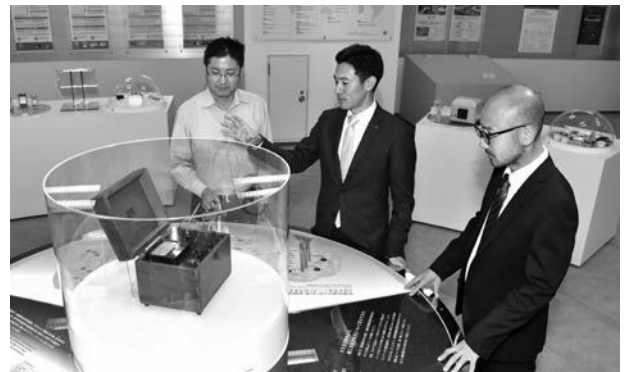
もうひとつの趣味であるゴルフは、海外に行ってから本格的にはじめました。ゴルフはコミュニケーションを深めるツールとしても役立つので、やっていてよかったと思います。

——最後に当協会に対してご意見・ご要望などがありましたらお願いいたします。

協会は業界のさまざまな方々とのかかわりを持てる貴重な機関だと思います。協会内で築いた人脈を通して現場の声やニーズなどをいろいろお聞かせいただければと思います。また、グローバル展開も含めた他の企業の皆さまの取り組みであったり、困っておられることなど、時にはパートナーとしてつながるためのきっかけを作っていただけたらうれしいですね。これからもよろしくお願ひいたします。



東京オフィス・ショールームで鈴木広報委員に説明される堀場社長



堀場製作所設立の礎を築いた〇〇〇分析計（中央）について語られる堀場社長